

夕陽會報



秋色【上磯ハリストス正教会(北斗市)】 第239号

◇巻頭言◇

全国支部長会議と夕陽指導主事等会と

夕陽会会長 風間 和夫

(昭和57年卒)

夕陽会は全国に二十七の支部を持ち、現在は二十三の支部がそれぞれの地区で同窓の絆を深めております。その支部代表が年に一度集まり、交流する場が全国支部長会議です。毎年総会の日に総会に先立って開催されますが、本部としても最重要会議の一つとして捉えています。各支部の現状や成果、課題など生の声を

聴く絶好の機会でもありますし、支部同士の交流を確かめる場でもあります。各支部とも会員減少の波は否めませんが、コロナ禍が一段落し、懇親会のみならず研修会の実施などが今年度は多くありました。本部として支部の皆様へ感謝申し上げます。

支部研修会の講師選定にあたり、本部に依頼が来ることがあります。その折にいつも助けていただいているのが夕陽指導主事等会です。教育行政職を担っている同窓は力強い存在です。そんな夕陽指導主事等会もまた独自に学習会を実施しています。休日にもかかわらず本庁をはじめ全道から一堂に会して研修する姿には頭が下がります。オンラインではなく、あえて集会形式で開催することにも大きな意義を感じます。今年

は東京学芸大学教職大学院准教授を招聘し、「道德の研修を実践的に行うこと」と題し、演習を含めた学習会を開催しておりました。今回の講師は夕陽会員であり、夕陽指導主事等会のOBでもあります。全国で活躍する仲間とここでも出会うことができました。

毎年、指導主事等会会長から「本部会長から等会会員に励ましの言葉を掛けてください。」と依頼されます。教育課題が多い昨今、ご苦労が絶えないであろう行政職の皆様ですが、活みなぎる言動や笑顔溢れる表情を目の当たりにして、むしろ私のほうがいつも元気をもらっています。夕陽会の永きにわたる伝統の中で先輩から引き継がれている力を等会の皆様から感じ取ることができそうです。とはいえ夕陽指導主事等会の会員も年々減少傾向にあります。一人でも多く、夕陽会から行政に携わる人材を発出できればと願っております。来年度、夕陽指導主事等会は設立五十周年の節目を迎えます。改めて先人のこれまでの功績と現等会会員の皆様のご活躍に敬意を表する次第です。

話題は変わりますが、今年の本部総会ではいくつか課題についてお話しさせて頂きました。予算執行については厳しい状況になってきております。伴って今年度は名簿発行の年となっておりませんが、冊子として全員に配付することは今回で終了したいと考えております。母校の支援や地域の教育へ寄り添うための方策なども推進事項に入れました。夕陽会として函館校に何ができるのかを模索しながら貢献していきたいと考えます。

結びになりますが今後とも会員の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

顧問・参与会

令和七年六月二十一日(土)、附属函館小学校において、顧問・参与会が開催されました。当日は、橋田顧問や藤川顧問をはじめ、大先輩の参与の皆様にも出席いただきました。

風間会長の挨拶の後、議長に竹鼻副会長が選出され、総会議案について意見をいただきました。「正副会長会議」「顧問・参与会」を正式な会議として位置づけるための規約の改正についてご賛同いただきました。また、今後の夕陽会名簿等の情報の取り扱いについてご意見をいただきました。さらに、今後の会の存続のために、「一層大学と連携を深めながら、道南地区の教育の向上に資することが重要」であることや「運営費の節約に加えて学生支援金などの寄付を募る啓発方法を模索することが大切」など多くの助言をいただきました。

全国支部長会議

令和七年六月二十八日(土)、函館国際ホテルにおいて、全国支部長会議が開催されました。会議には、二十一名の支部長や支部幹部の皆様に参加いただきました。

栗田副会長と島津副会長が議長に選出され、総会の議案及び運営について話し合われました。その後、各部からの連絡・依頼事項についての説明が行われました。会議の最後に、各支部から活動状況についての報告がありました。会員数の減少傾向が続いていること、三支部交流会等の支部同士のつながりの大切さを実感されていること、研修として、学校経営セミナーを実施したところ、会員以外の参加者もあったことなど、共通の課題や成果が報告されました。各支部とも会員の減少課題がある中、若手会員の参加の促進や、教員以外の会員の発掘など努力を重ねている支部が多いことがわかりました。また、オンラインと参加を併用した交流会・研修会を実施するなど、それぞれの支部の参加の在り方の工夫についても交流することができました。各支部が、知恵を絞り、夕陽の灯火を絶やさないよう努力してくださっていることを実感し、本役員一同、一層夕陽会のために尽くしていきたいと気持ちを新たにしました。

本部総会

全国支部長会議終了後、函館国際ホテルを会場に令和七年度本部総会が開催されました。審議に先立ち、夕陽讃歌を合唱し、風間会長から多くの参加者による総会を開催することができた。母校の発展と道南の教育の向上のために、人とのつながりや母校に寄り添うことを大切にする今後の夕陽会について新たな提案もさせていただくので、審議をお願いしたい。さらに、今年度も大懇親会を実施できることを喜ばしく思う。」との挨拶がありました。

議長として成田佳予支部長(上川)、今井浩文支部長(根室)、鈴木稔支部長(青森南部)本部役員選考委員及び議事録署名人、記録者をそれぞれ選出して議事に入りました。

報告事項では、澤田幹事長代行が令和六年度の会務・事業報告を行いました。その後、新田財政部長代行による令和六年度会計決算報告、竹嶋監査による令和六年度会計監査報告が行われました。

続いて、風間会長から本年三月の卒業・修了者の就職状況は、昨年度に比べ教員志望が二割と少しずつ増えていくことについて説明がありました。また大学の財政が厳しくなってきたこと等も鑑み、母校の今後のバックアップを夕陽会として積極的に取り組んでいくことが話されました。そのことに伴い「資料…今

後の函館校を考える」が提示されました。夕陽会として、今後大学と連携を深めながら、①道南地域における教育の質的向上の二一ズに対応②函館校における教員免許取得の維持③道南地域の教育環境の活性化を目指すことを目的として特別チームを発足することが提案されました。

協議事項では、澤田幹事長代行から令和七年度運営方針・推進事項、事業計画が提案。その後、新田財政部長代行が令和七年度会計予算案について説明しました。次に、役員選考委員長の坂見明信副支部長(石狩)から、選考結果についての提案がありました。

なお、報告事項と協議事項については、いずれも満場の拍手をもって承認されました。

推進事項 (□は重点事項)

①組織強化と運営の効率化

□支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携

②人材の育成

□地域の教育・文化の振興をリードする会員の発掘と育成

③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

□財政減少に関わる財政基盤の中・長期的な整備策の実施

④研究・研修、文化事業の奨励

□研究・研修助成並びに研究内容の紹介、教育の質的向上に向けた二一ズの把握

・大懇親会

於 函館国際ホテル



大懇親会・風間会長による挨拶

令和7年度

夕陽会総会

令和7年6月28日(土)



大懇親会

- ◎副会長 澤田 真次(昭和63年卒)
 ◎副会長 佐藤 等(昭和63年卒)
 ◎副会長 花松 均(平成3年卒)
 ◎監査 近藤 健(昭和41年卒)
 ◎監査 林 敏雄(昭和55年卒)
 ◎監査 竹嶋 充(昭和56年卒)
 ◎幹事長 澤田 仁志(平成9年卒)
 ◎副幹事長 宮下 知子(平成4年卒)
 ◎副幹事長 黒田 諭(平成5年卒)

⑤母校への支援と地域への貢献

□母校や附属学校における教員養成の支援、道南地域の教育環境の活性化のサポート等、母校や道南地域の教育に寄り添っていくための動向把握と母校との連携の充実

⑥夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

□夕陽記念館の現状把握、環境整備、陳列品の整備・管理

令和7年度 本部役員(総会選出)

◎は新任

- 会長 風間 和夫(昭和57年卒)
 ○副会長 伊藤 皓嗣(昭和44年卒)
 ○副会長 西谷 文子(昭和44年卒)
 ○副会長 島津 彰(昭和48年卒)
 ○副会長 竹鼻 洋文(昭和49年卒)
 ○副会長 栗田 俊一(昭和53年卒)
 ○副会長 田村 宏美(昭和58年卒)
 ○副会長 佐藤 豊(平成元年卒)
 ◎副会長 阿部 真之(昭和63年卒)

昨年度に引き続き、盛大な大懇親会を開催することができました。開

会に先立ち副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。

宮下知子副幹事長の進行のもと佐藤豊副会長が開会を宣言し、令和7年度大懇親会の宴が始まりました。

「夕陽讃歌」の斉唱では、参加者全員の母校に対する思いが込められた「夕陽讃歌」となりました。

会長挨拶で、風間和夫会長から、大懇親会を開催できたことに対する会員皆様のご協力への感謝が伝えられました。さらに、来賓の皆様や会友の萩原様への感謝の言葉が述べられました。そして、『夕陽会は、現在教職に就く後輩たちが少なくなっているが同窓を大切にしている精神を土台として、それぞれが自らの使命や生き方を見つめつつ歩んでいる。さらに教職以外の職に就いて活躍を続ける同窓生ともっとつながって

いくことができるよう支援をしたいきたい。何より同窓会として、大学・学生への協力と支援を続けていきたい。夕陽の灯火を絶やさず持続可能な夕陽会として歩んでいきたい』という呼びかけがありました。

ご来賓挨拶においては、函館市長大泉潤氏から、北海道の教育、そして道南地域の教育の今日的課題の解決に向け、日頃から努力している夕陽会会員への感謝と今後ますますの発展を願う激励の言葉をいただきました。

次に、北海道教育庁渡島教育局義務教育指導監本庄伯幸氏による祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。

大懇親会では、座席は伝統の卒業年次ごととなり、会場内は、互いに学生時代の思い出話に花を咲かせ、青春時代にもどったように語り合う姿が随所に見られました。夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ちあふれる雰囲気を感じ、胸が熱くなったことを本部役員一同が、終了後の会場を眺めながら語り合いました。

閉会が近づく中、トリを飾る寮歌の大合唱が始まります。恒例の小林周次先生(昭和三十三年卒)とご来賓の方々も「夕陽」の法被姿で登壇すると、会場の雰囲気は更に盛り上がりしました。引き続き、小林周次先生の音頭で母校に対する思いを込めた歌声が会場全体に響き渡りました。小林先生は、ラスト歌唱を宣言され

ましたが、会場からは「来年も一緒に歌いたい。まだまだお願いします。」との熱いメッセージが沸き起こりました。

余韻覚めやらぬ中、乾杯の時間となりました。函館市教育委員会教育委員木村雅彦氏が乾杯の音頭を取り、宴はお開きになりました。

最後に澤田真次副会長が閉会を宣言し、副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

令和8年度も六月二十七日(土)に、函館国際ホテルにおいて夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。多くの会員諸氏がごぞつて集い、同窓の輪を広げられるようご協力をお願いします。



小林周次先生の音頭による寮歌斉唱

令和七年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の進化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

- 1 会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。
- 2 多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組

- 3 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携(重点事項)

- 4 会社員・公務員会員の組織化の推進

- 5 若手会員の運営への積極的な参画(重点事項)

- 6 夕陽会報239、240号の発行

- 7 夕陽会名簿の発行と今後の方向性、活用の仕方検討(重点事項)

2 人材の育成と発掘

- 1 人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。
- 2 多種多様な立場の会員を結び、会員相互が交流・連携できる場や機会の工夫(重点事項)

- 3 地域の教育文化の振興をリードする会員の発掘と育成(重点事項)

- 4 民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

- 1 「つなぎ」「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。
- 2 財政減少に関わる、財政基盤の中・長期的な整備策の実施(重点事項)

- 3 本部役員の職務の明確化と専門部、諸業務、諸事業の見直し

- 4 各支部と連携した諸会費の納入への取組、学生支援金寄付の啓発と奨励(重点事項)

- 5 地域や職種における会員の多様

4 化に対応できる納入方法の検討

- 1 研究・研修、文化事業の奨励
- 2 会員による個人及び共同の研究・研修等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

- 3 研究・研修助成並びに研究内容の紹介、教育の質的向上に向けたニーズの把握(重点事項)

- 4 各支部の研究活動等の支援

- 5 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成

- 6 会員と母校学生による協働活動の奨励

5 母校への支援と地域への貢献

- 1 母校の継続と発展を願い、現役学生への支援を行う。
- 2 母校の就職対策関係事業及び教育採対策関係事業への支援

- 3 学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動・卒業後の動向把握の工夫

- 4 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援

- 5 学生の生活、スポーツ・文化・芸術活動への支援

- 6 母校や附属学校における教員養成の支援、道南地域の教育環境の活性化のサポート等、母校や道南地域の教育に寄り添っていくための動向把握と母校との連携の充実(重点事項)

6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

- 1 記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用に努める。
- 2 会員の作品、記念資料などの収集と会報やWebページ等での周知

- 3 夕陽記念館の役員による現状把握、文化部を中心とした環境整備、陳列品の整備(重点事項)

- 4 夕陽記念館の教育活用の在り方検討、学生・地域住民への開放の在り方検討(重点事項)

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

宮下 知子(附属特支副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録
- 2 文書の收受、発送及び保管

- 3 会員の慶弔事務

- 4 その他、庶務に関する事

財政部

新田 英樹(松前町立大島小長)

- 1 運営会費の徴収、支出事務
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

- 3 予算書、決算書の作成

- 4 前納会員に関する事務

- 5 その他、財政に関する事

組織部

黒田 諭(附属中副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策
- 2 会員の動向調査(支部別、校種別、会員名簿)

- 3 支部役員名簿の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

- 4 その他、組織全体に関する事

情宣部

宮森 仁之(桔梗小長)

- 1 「夕陽会報」の発行
- 2 夕陽会ホームページの作成とその管理

- 3 その他、情宣に関する事

文化部

柿崎 雄二(高丘小長)

- 1 会員の文化活動に対する支援
- 2 夕陽揭示コーナーの設置、管理

- 3 会員の作品及び記念資料の収集

- 4 文化事業の検討、企画

- 5 その他、文化に関する事

研修部

坂井 顕也(北昭和小長)

- 1 会員の個人及び共同研究への助成
- 2 支部ブロックにおける研修活動に対する支援

- 3 講演会等の企画、開催

- 4 その他、研修に関する事

学生支援部

田上 悟(青柳小長)

- 1 学生支援事業の企画、実施
- 2 学生参画による夕陽記念館の整備、活用

- 3 その他、学生生活、各種活動の支援に関する事

令和7年度夕陽会本部役員名簿

○会長

・風間 和夫（昭和57年卒） 函館市八幡町7-13
○副会長（総会において選出）

・伊藤 皓嗣（昭和44年卒） 函館市八幡町2-7

・西谷 文子（昭和44年卒） 北斗市久根別2-17-21

・島津 彰（昭和48年卒） 北斗市飯生2-10-5

・竹鼻 洋文（昭和49年卒） 函館市石川町35-1

・栗田 俊一（昭和53年卒） 札幌市白石区平和通1丁目南5-17

・田村 宏美（昭和58年卒） 北斗市中野通2-18-1

・佐藤 豊（平成元年卒） 函館市小学校長会長

・阿部 真之（昭和63年卒） 函館市中学校長会副会長

・澤田 真次（昭和63年卒） 渡島校長会長

・佐藤 等（昭和63年卒） 檜山校長会会長

・花松 均（平成3年卒） 高等学校支部長

○監査

・近藤 健（昭和41年卒） 函館市柏木町6-13

・林 敏雄（昭和55年卒） 函館市上湯川町23-38

・竹嶋 充（昭和56年卒） 函館市北美原2-22-18

○幹事長

・澤田 仁志（平成9年卒） 附属函館小学校副校長

○副幹事長（総会において選出）

・宮下 知子（平成4年卒） 附属特別支援学校副校長

・黒田 諭（平成5年卒） 附属函館中学校副校長

○総務（会長委嘱）

・酒井 充（昭和46年卒） 函館市美原5-31-18

・佐藤 洋子（昭和52年卒） 函館市乃木町3-18

・金谷美也子（昭和54年卒） 函館市赤川1-23-6

・佐竹 聡（昭和58年卒） 北斗市常盤3-6-11

・一戸 裕之（昭和58年卒） 函館市富岡町2-28-2

・土橋 史人（昭和58年卒） 函館市美原5-35-7

○代表支部長（会長委嘱）

・函館市支部

・寺崎 歩（平成2年卒） 函館市立北日吉小学校長

・渡島支部

・附田 勇人（平成2年卒） 八雲町立八雲小学校長

○代表支部幹事長（会長委嘱）

・函館市支部

・竹内 昭夫（平成8年卒） 函館市立中央小学校教頭

・渡島支部

・藤谷 毅（平成13年院卒） 北斗市立沖川小学校長

○顧問

・木村 育恵（平成14年院卒） 北海道教育大学函館校キャンパス長

・川島 孝夫（昭和31年卒） 函館市深堀町35-24

・橋田 恭一（昭和39年卒） 函館市日吉町1-22-23

・藤川 隆（昭和48年卒） 函館市山の手2-9-46

○参与

・山田 富雄（昭和28年卒） 函館市大川町4-43-713

・田中 則夫（昭和28年卒） 岩手県陸前高田市高田町字本丸304-7

・森野 重雄（昭和30年卒） 函館市神山3-18-20

・大島 安長（昭和30年卒） 埼玉県志木市上宗岡5-9-44-217

・加藤 弘（昭和32年卒） 函館市湯川町2-35-7

・小本 毅（昭和32年卒） 江別市大麻中町26-18 大麻コーポ516

・田村 志朗（昭和32年卒） 函館市富岡町1-12-12

・磯部 正博（昭和32年卒） 北斗市常盤1-20-1

・高村 昭三（昭和33年卒） 函館市深堀町2-8

・小林 周次（昭和33年卒） 函館市西旭岡2-11-11

・中島 征士（昭和34年卒） 函館市赤川町57

・尾島 悌介（昭和34年卒） 函館市湯川町2-43-13

・中瀬 裕義（昭和34年卒） 札幌市西区福井2-3-25

・山内 脩介（昭和36年卒） 北斗市本町5-25-2

・小浅 梯司（昭和37年卒） 七飯町中野48-7

・札内 征男（昭和37年卒） 函館市東山1-11-2

・笹原 志郎（昭和38年卒） 函館市富岡町2-59-9

・渡利 正義（昭和39年卒） 函館市中道2-2-18

・繪面 和子（昭和39年卒） 函館市榎本町6-20

・絹野 重治（昭和40年卒） 函館市榎本4-5-6

・古旗 英捷（昭和41年卒） 札幌市中央区南13西21-1-4-702

・齊藤 孝（昭和41年卒） 函館市深堀町14-29

・長谷川 良任（昭和41年卒） 函館市深堀町7-16

・寺岡 昭治（昭和42年卒） 函館市西旭岡町2-23-3

・小山内 武弘（昭和42年卒） 函館市山の手1-27-12

・石戸 大機（昭和42年卒） 函館市柏木町40-12

・中谷 匡利（昭和42年卒） 青森市造道1-9-28

・野田 孝夫（昭和43年卒） 札幌市北区新川2-11-2-61

・川合 正芳（昭和43年卒） 函館市日吉町4-21-7

・塩崎 設男（昭和43年卒） 函館市東山2-13-12

・塩崎 勝順（昭和44年卒） 函館市美原1-46-14

・沼崎 孝男（昭和44年卒） 函館市官前町8-6

・横山 眞昭（昭和44年卒） 札幌市豊平区平岸1-2-13-8

・二本柳 隆通（昭和45年卒） 札幌市中央区北4西24-2-1-501

・平出 陽子（昭和46年卒） 北海道議会議員 函館市人見町19-5

・道幸 拓志（昭和46年卒） 函館市榎町62-23

・本間 秀昭（昭和46年卒） 北斗市七重浜6-7-7

・大西 正光（昭和48年卒） 函館市赤川1-16-25

・高橋 裕（昭和48年卒） 札幌市中央区北4西23-1-28-703

・玉手 道男（昭和48年卒） 函館市日吉町3-7-16

・能戸 誠一（昭和48年卒） 函館市榎本町15-35

・田面木 茂樹（昭和48年卒） 奥州市水沢区真城字垣ノ内20-3

・浪岡 康二（昭和48年卒） 北見市美山町南8-45-114

・藤井 壽夫（昭和49年卒） 函館市教育委員会教育長

・伊勢 昭（昭和49年卒） 函館市高丘町15-23

・碓 幸信（昭和49年卒） 函館市山の手3-65-8

・田中 健一（昭和49年卒） 函館市柏木町17-7

・加屋本 旬（昭和49年卒） 七飯町教育委員会教育委員

・小松 一保（昭和50年卒） 函館市日吉町4-20-22

・市川 秀雄（昭和50年卒） 函館市榎本4-6-50

・斉藤 房生（昭和50年卒） 紋別市渚滑町元新3-172-2

・鈴木 祐司（昭和50年卒） 函館市北美原3-21-12

・阿部 憲司（昭和51年卒） 函館市高丘町39-2

・古保 博之（昭和51年卒） 白老町末広町5-4-8

・田邊 信之（昭和51年卒） 函館市日吉町3-31-12

・近野 豊（昭和51年卒） 石狩市花川北3-1-2-77

・小笠原 正司（昭和52年卒） 北斗市本郷2-19-11

・須藤 由司（昭和52年卒） 函館市湯川町3-33-3

・高野 卓也（昭和53年卒） 札幌市厚別区厚別東5-3-24 10サーム新さつぽろ127号

・和高 敏明（昭和53年卒） 八雲町末広町156

・青木 昌文（昭和53年卒） 函館市千歳町17-17

・大堂 讓（昭和53年卒） 七飯町大川5-40-11

・八木 裕（昭和53年卒） 函館市榎本1-24-23

・高橋 登（昭和53年卒） 函館市日吉町4-3-4

・本間 勝美（昭和53年卒） 岩内町議会議員

・土谷 敬（昭和54年卒） 函館市大手町14-3

・戸澤 和彦（昭和54年卒） 函館市東山2-17-44

・岡野 伸二（昭和54年卒） 函館市北美原1-25-8

・川野 真一（昭和54年卒） 七飯町大川9-26-16

・松宮 健治（昭和55年卒） 函館市議会議員

・荒谷 順一郎（昭和55年卒） 新篠津村第47線北13

・毛利 繁也（昭和55年卒） 森町上台町23-63-104

・久保田 達也（昭和55年卒） 新ひだか町教育長

・山田 幸俊（昭和56年卒） 函館市の場町16-15

・金 賢治（昭和56年卒） 陸前高田市高田町本丸304-8

・奥村 尚久（昭和57年卒） 新冠町教育委員会教育長

・片桐 由博（昭和57年卒） 七飯町大川9-28-17

・榊 博之（昭和58年卒） 函館市美原3-28-26

・海野 厚二（昭和58年卒） 北斗市向野1-9-25

・辻 俊行（昭和59年卒） 函館美術館長

・中山 秀悦（昭和59年卒） 今金町教育委員会教育長

・松浦 一秀（昭和59年卒） 函館市鍛冶1-27-6

・木村 雅彦（昭和59年卒） 函館市山の手3-56-26

・奥崎 敏之（昭和60年卒） 函館市日吉町3-24-5

・河本 浩昭（昭和60年卒） 浦臼町教育委員会教育長

・伊藤 博明（昭和61年卒） 室蘭市教育委員会教育長

・小野寺 則之（平成3年卒） 福島町教育委員会教育長

支部役員名簿

[illegible]

令和6年度 夕陽会本部会計決算報告

(R6.5.2～R7.4.23)

1 通常会費会計

※ 資料1 参照

(単位：円)

収入総額	支出総額	差引残額
5,133,668	4,905,904	227,764

<収入内訳>

項目	予算額	決算額	比較	備考
会費	3,005,000	3,063,500	58,500	・1,233人（内道外2000円@38名含）で計算
元金からの補助金	300,000	300,000		
雑収入	10	416	406	・利子（416）
繰越金	1,769,752	1,769,752		
計	5,074,762	5,133,668	58,906	

<支出内訳>

項目	予算額	決算額	比較	備考
事業費	2,250,000	2,215,870	△ 34,130	各種事業 会員名簿積立(60万) 研究及び研修補助 学生表彰 母校110周年記念寄付(20万) その他
補助費	430,000	657,798	227,798	支部・支会総会 同期会・研究室総会等 御祝 指導主事等会 ブロック会議 その他
会合費	260,000	276,768	16,768	全国支部長会議 役員会 その他
旅費	1,600,000	1,385,076	△ 214,924	全国支部長会議 役員会 支部及び支会総会 その他
事務費	500,000	370,392	△ 129,608	電話代 郵送費 印刷費 事務用紙 H P運用費用 その他
慶弔費	20,000	0	△ 20,000	祝電 その他 ※前納会員の慶弔費は益金から支出
雑費	10,000	0	△ 10,000	茶菓 その他
予備費	4,762	0	△ 4,762	予備
計	5,074,762	4,905,904	△ 168,858	

上記の各項（通常会費会計）の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和7年5月8日

会計監査

近藤 健

林 敏雄

竹嶋 亮

2 基本金会計

(単位：円)

収 入 金 額	支 出 総 額	差 引 残 額
39,108,821	2,659,626	36,449,195

項 目	元金の部		益金の部	
収 入	23,904,503		15,204,318	
内 訳	公募公債	22,000,000	繰越金	1,150,032
	繰越金	1,484,061	みずほ信託銀行満期	13,000,552
	借入金	0	元金より	1,000,000
	前納会員（14名分）	420,000	本年度利子	53,734
	受取利子	442	（貸付信託）	（46,920）
	公募公債差引額	1,904,503	（銀行利子）	（6814）
支 出	1,804,895		854,731	
内 訳	振込手数料	4,895	前納会員記念品送料他	1,670
	益金へ	1,000,000	前納会員慶弔費他	238,751
	R6通常会費会計へ（会費縮減の緩和措置）	300,000	会報印刷代	298,100
	母校110周年記念式典への寄付	500,000	会報送料	316,210
			会員名簿印刷代・送料	0
差引残高	22,099,608		14,349,587	

【公募公債状況】

	金 額	名 称	償還・満期日
みずほ信託銀行	13,000,000	大口定期預金	2022.06.05(R04) →2022.06.06益金へ
野村証券	5,000,000	札幌市平成29年度第3回公募公債	2027.06.18(R09)
	4,000,000	北海道平成29年度第5回公募公債	2027.06.30(R09)
	8,000,000	北海道平成29年度第15回公募公債	2028.02.28(R10)
三菱UFJ証券	5,000,000	第11回三菱ファイナンシャルグループ	2026.07.29(R08)
合 計	35,000,000		

※償還・満期日は証書記載の元号による。

上記の各項（基本金会計）の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和7年5月8日

会計監査





学生支援金会計

収入総額	支出総額	差引残高
1,587,992	1,518,564	69,428

(1) 収入内訳

項 目	金 額	備 考
寄 附 金	806,000	2,000×315人 安島様(10万円) 会友 萩原様、小宮様(10万円)
雑 収 入	107	利子107
繰 越 金	781,885	
計	1,587,992	

(2) 支出内訳

項 目	金 額	備 考
支 援 物 資 関 連	602,750	QUOカード(学生300人分) 学生表彰目録印 その他
助 成 費	825,000	吹奏楽団 地域づくり支援実習 準硬式野球部 モダンダンスクラブ 劇団PAP 附属中リノベーション事業への寄付(30万円) 母校110周年記念式典への寄付(30万円)
学生支援部助成費	45,536	
払 込 料	45,278	
計	1,518,564	

上記の各項(学生支援金会計)の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和7年5月8日

会計監査

近 藤 健

林 敏 雄

所 嶋 充

令和7年度 夕陽会本部会計予算(案)

1 通常会費会計

(1) 収入内訳

(単位：円)

項 目	予 算 額		比 較	備 考
	令和6年度	令和7年度		
会 費	3,005,000	2,880,000	△ 125,000	会員数1159人(内道外35名)で計算
益金からの補助金	300,000	1,000,000	700,000	会員及び繰越金縮減の緩和措置
雑 収 入	10	290	280	利子
繰 越 金	1,769,752	227,764	△ 1,541,988	
計	5,074,762	4,108,054	△ 966,708	

(2) 支出内訳

(単位：円)

項 目	予 算 額		比 較	備 考
	令和6年度	令和7年度		
事 業 費	2,250,000	1,400,000	△ 850,000	各種事業 会報発行・発送 研修補助 その他
補 助 費	430,000	610,000	180,000	支部・支会総会 同期会・研究室総会等 御祝儀
会 合 費	260,000	260,000	0	指導主事等会 ブロック会議 その他
旅 費	1,600,000	1,400,000	△ 200,000	全国支部長会議 役員会 その他
事 務 費	500,000	420,000	△ 80,000	全国支部長会議 役員会 支部及び支会総会 その他
慶 弔 費	20,000	10,000	△ 10,000	電話代 郵送費 印刷費 事務用紙 HP運用費用 その他
雑 費	10,000	5,000	△ 5,000	祝電 その他 ※前納会員の慶弔費は益金から支出
予 備 費	4,762	3,054	△ 1,708	茶菓 その他
計	5,074,762	4,108,054	△ 966,708	予備

令和7年度 夕陽会事業計画(案)

月	事業等	諸会議	事務局	ブロック・支部関係
R7 4月	・キャンパス長との懇談(会長・副会長)			
5月		・監査(8) ・第3回本部役員会(22)	・総会等の準備(庶) ・名簿作成準備(組)	
6月		・顧問・参与会(21) ・全国支部長会議、総会、大懇親会(28)		
7月	・夕陽教育フォーラム ・教採二次対策講座		・管理職・行政職等名簿発行(組) ・支部役員名簿発行(組)	
8月			・「学生応援基金」依頼文書等の発送	
9月	※五校同窓会長等会議(旭川開催)		・会員名簿発行に向けての取組(組)	
10月	・キャンパス長との懇談		・会費等納入促進(組・財) ・会報第239号発行(情)	・道央ブロック会議
11月	・指導主事等会学習会	・第1回本部役員会	・会員名簿発行に向けての取組(組)	・道東ブロック会議 ・道北ブロック会議
12月	・学長との懇談		・会費等納入促進(組・財) ・会員名簿発行	
R8 1月		・会社員、公務員部会懇親会	・会員名簿前納会員に発送 ・希望者に販売	
2月	・道教育長と5校同窓会長との懇談	・第2回本部役員会	・会費等納入促進(組・財)	
3月	・函館校学位記授与式 ・学生表彰		・入会手続き(庶・組) ・会報第240号発行(情)	
4月	・入学式			
5月		・監査 ・第3回本部役員会	・総会等の準備(庶)	
6月		・顧問・参与会 ・全国支部長会議、総会、懇親会(27?)	・支部役員名簿発行(組) ・管理職・行政職等名簿発行(組)	
日 常 業 務	・大学・学生支援	・事務局会議(毎月) ・事務局各部会	・慶弔関係(庶) ・前納会員手続き(財) ・Webページの更新(情) ・研究助成(研) ・夕陽掲示コーナー(文)	・支部総会・懇親会 ・支部研修会等

令和8年度 本部総会・大懇親会・全国支部長会議
令和8年6月27日(土) 函館国際ホテル ※詳細は次号でお知らせします。

「道南の教育の今」

（調査に見る教育の諸課題）

夕陽会の創立百十年（令和10年）を迎えるに当たり、今後の同窓会の活動の指針を得るために道南の教育状況の調査を行った。趣旨は母校の改組で教員養成が大幅に縮小したことが、教育現場にどのような影響を与えているかを調査するもので、対象は渡島・松山管内の学校（小・中学校・義務教育諸学校も含む）を対象に、令和7年8月末に実施した。学校数は140校中、104校の回答。市町村教育委員会は18教委中、17教委である。

〈項目1…教員に求められる専門性で上位3項目〉

学校

①生徒指導（いじめ・不登校等）

②学力向上 ③指導技術

教育委員会

①生徒指導（いじめ・不登校等）

②学力向上 ③ICT教育

〈項目2…附属学校に望む研究テーマで上位3項目〉

学校

①学力向上 ②ICT教育 ③指導技術

教育委員会

①学力向上 ②教育課程、指導技術 ③ICT教育

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

①運動系 ②音楽系 ③芸術系（1校）

〈項目3…教員の充足で困難な上位教科・免許〉

学校

①技術・家庭科 ②美術、英語、理科

教育委員会

①技術・家庭科 ②美術 ③英語

〈項目4…複数の免許の必要性〉

学校

必要ありの回答は62%で、①小学校と特別支援教育、②中学校と特別支援教育の順位が高い。

また、義務教育諸学校の開設に伴い、小学校と中学校の両方の免許をもった教員の必要性が多かった。

教育委員会

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

必要ありの回答は88%で、①小学校と中学校、②小・中学校と特別支援教育の順位が高かった。

学校（上位4項目）

①小学校教員免許取得の定員増加 ②小・中の複数免許の取得条件の緩和 ③特別支援教育の免許の取得条件の緩和

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

①小・中の複数免許の取得条件の緩和 ②小学校教員免許取得の定員増加、保健体育、音楽、美術、技術、家庭などの免許の復活

就任ご挨拶

副会長

佐藤 豊

平成元年卒
函館市立北美原小学校長

この度、函館市小学校長会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかり、その任の重さに身の引き締まる思いでおります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、夕陽会の充実・発展のため精一杯務めさせていただきます。

私は、平成元年に母校を卒業し、福島町立福島小学校を振り出しに、上磯町・函館市の小学校に勤務してまいりました。教頭となつて後志管内で三年間勤務いたしました。周囲に知人や友人もいない中、後志夕陽会の皆さんに助けていただきました。

た。また、校長採用となり、胆振管内に勤務した際にも胆振夕陽会の皆さんとのつながりができました。

特に一番長く勤務した函館市内では、夕陽の諸先輩方から温かいご指導やご支援を賜り、教師としても人としても成長させていただきました。

今、自分があるのも、どの地域においても結びつきの強い夕陽同窓の皆様を支えや温かさによるもの、心から感謝しております。

この度の就任を機に、これまでお世話になった皆様への恩返しと、夕陽会の発展に、微力ではありますが、寄与できるよう職務に当たらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月24日

発行所

北海道教育大学夕陽会

編集発行人

風間和夫

〔7〕

令和7年10月24日



副会長
阿部 真之
昭和63年卒
函館市立巴中学校長

この度、函館市中学校長会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。その任の重さに身の引き締まる思いです。風間会長をはじめ役員の皆様のご指導を仰ぎながら、本会の充実・発展に微力ながら努めさせて頂きます。

私は昭和六十三年に母校を卒業した後、福島町立福島中学校を振り出しに渡島管内や函館市の中学校に勤務して参りました。私の大学卒業のタイミングは教員の採用率も低く、またパブルと重なって民間企業への就職が多い頃でした。夕陽会同期の仲間は少なかつたですが、赴任先の学校や市町では多くの先輩がいらっしゃり、後輩達も続々と戻ってきたことで、同窓の温かい人間関係が常に周囲にありました。同窓の年代を超えた交流は、学校荒廃の最中激務であった教員生活における大切な心の支えであったと強く感謝しております。

この度、この任を拝命したことは、これまでたくさんお世話になってきたことへの恩返しをする機会を頂いたと肝に銘じ、令和の時代の夕陽会が持続可能でかつ発展することに貢献できるように精一杯職務にあたらせて頂きます。どうぞよろしくお願ひいたします。



副会長
澤田 真次
昭和63年卒
七飯町立沼岳陽中学校長

この度、渡島小中学校長会を代表しまして夕陽会副会長を仰せつかりました。長きにわたり本会の発展にご尽力されてきた諸先輩方の築いてこられた伝統ある「夕陽会」の役員を務めさせていただくことになり、身の引き締まる思いであります。

私は卒業後、教師の第一歩を奥尻町立奥尻中学校で踏み出しました。奥尻での勤務は、夕陽会の先輩方から多くのことを学んだ基盤です。在勤中には北海道南西沖地震にも遭遇し、人の温かい支援の重要性を肌で感じる貴重な経験もいたしました。

その後、函館や渡島管内での一般教諭・教頭時代にも、多くの夕陽の先輩方からご指導や温かい励ましをいただき、公私にわたり大変お世話になりました。校長採用となり、人事交流で胆振管内へ赴任した際にも、胆振夕陽会の諸先輩や仲間達と出会う機会に恵まれました。渡島管内と離れた地にあっても「夕陽魂」をしっかりと受け継ぎ、熱い心で活動されていることに、深く感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えています。

これまでいただいた多くの諸先輩方へのご恩に報いるため、そして、本会のさらなる発展に寄与できるよう、微力ではございますが、精一杯尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



副会長
花松 均
平成3年卒
北海道函館西高等学校長

この度、高等学校部会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。風間和夫会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、微力ではありますが任を務めさせていただきます。

私は、平成三年三月に母校を卒業し、苫小牧工業高校から教員生活がスタートしました。その後、松前高校、八雲高校と道南の三校で勤務したのち、教育行政で九年、校長として紋別高校、市立函館高校を経て、現在に至っております。全道各地を異動する中で、各勤務先では同窓生の先輩をはじめ、多くの方々から仕事に関することはもとより、相談事など様々な面で助けられ、同窓生の存在は大変有難く感謝しているしだいです。

高等学校部会とは全道全域での勤務となることから、部会として、会員の方が一堂に会して、総会などを行うことは、現実的に難しい状況にあります。また、母校を卒業し高校教員になる方がほとんどいないことから、会員数が減少する一方になっていきます。部会では、運営が可能な時期まで、既存の高等学校支部会員の思いに添えて活動していくこととしております。

残り少ない教員生活を、道南教育の充実と夕陽会の発展に微力ではありますが貢献できるように努めて参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。



本部 幹事長
澤田 仁志
平成9年卒 北海道教育大学附属函館小学校副校長

この度の総会において、幹事長を仰せつかりました。久々に本部に戻つてのいきなりの大役、その重圧に押しつぶされそうな毎日を送っております。ただ、会長をはじめ、副会長の皆様、本部の役員の皆様にお力添えと励ましをいただきながら、なんとか日々の業務に邁進できております。

さて、本年六月の全国支部長会議と本部総会では、幹事長としての不手際が多々あったと思ひますが、皆様にあたたく見守っていただき無事盛会のうちに終えることができました。各支部長の皆様や総会にきてくださった皆様と直接お話をさせていただく中で、函館や母校への熱き思いを改めて実感させていただきました。人と人とのつながりを大切にして夕陽の灯を絶やさぬよう誠心誠意頑張つて参ります。

この度の就任を機に、これまでお世話いただきました諸先輩の皆様にご恩返しをして参ります。なにごん若輩者、そして未熟な人間でございます。どうか、今後皆様のご指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



函館市支部長
寺崎 歩
平成2年卒
函館市立北日吉小学校長

この度、夕陽会代表支部長という責任ある役目を拝命し、その大任にあつたため襟を正す思いであります。風間会長をはじめ役員の皆様からご指導をいただきながら、微力ですが誠心誠意その役目を果たしたいと考えております。

私事ですが、初任地の七飯町、二校目の旧南茅部町、次の函館市では、ひよつ子同然の私を夕陽の先輩達があたたく迎えてくれて非常に心強かつた記憶があります。函館市の次は長万部町へ。長万部支部総会や懇親会の折には、遠方にもかかわらず函館から役員さん達がわざわざ駆けつけてくれました。当時私は単身赴任の身で、役員さんからいただいたあたたかい激励のお言葉の数々に、すごく勇気づけられたことを覚えております。その言葉の中に「夕陽ではない同僚も大事にしなければいけないよ」がありました。私は、ハツと大事なことに気付かされ、以後その言葉を胸に刻んできました。夕陽の先輩達との出会いがなければ学べなかつたことだな、とあらためて感じ、感謝しています。

この度の就任をまた新たな出合いのチャンスと捉え、夕陽会の更なる発展に少しでも寄与できるように精進していきたいと考えておりますので、宜しくお願ひいたします。



代表支部長(渡島)
附田 勇人
平成29年卒
八雲町立八雲小学校長

この度、夕陽会代表支部長という大役を仰せつかり、支部長という役割の重さを感じ、身の引き締まる思いでおります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、精一杯務めさせていただきます。



財政支部長
新田 英樹
平成4年卒
松前町立大島小学校長

私は昨年度まで本部の幹事長を務めておりましたが、四月の異動に伴い、この度、夕陽会本部総会におきまして、財政部長を仰せつかりました。風間会長をはじめ、役員の皆様と連携を深めながら伝統ある夕陽会の充実・発展に精一杯努めて参ります。



情宣支部長
宮森 仁之
平成33年卒
函館市立桔梗小学校長

この度の夕陽会本部総会におきまして、近江辰仁情宣部長の後任として、その大役を仰せつかりました。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、微力ではございますが、伝統ある夕陽会の充実・発展のため精一杯努めてまいりたいと考えております。



研修支部長
坂井 顕也
平成14年修
函館市立北昭和小学校長

この度ご勇退されました、前研修部長高橋吉隆様の後任として大役を仰せつかりました坂井です。風間会長様をはじめ役員の皆様のご指導を賜りながら、微力ではございますが夕陽会の充実・発展のため、精一杯務めさせていただきます。



学生支援支部長
田上 悟
平成4年卒
函館市立青柳小学校長

この度はご縁があり、学生支援部長という大役を仰せつかり、その任の重さに身の引き締まる思いでおります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、伝統ある夕陽会の充実・発展に精一杯努めさせていただきます。

私は、平成二年に母校を卒業し、初任で渡島管内松前町立小島小学校勤務となりました。その後、南茅部町(現函館市)、北斗市(旧上磯・大野町)、長万部町、そして、現在の八雲町勤務に至っております。教育者として何もわからなかった私に、勤務していた小学校の先輩だけでなく各市町におられた夕陽会支部の諸先輩方から温かなご助言ご指導を賜り、今の自分があることを心より感謝しております。改めて同窓の絆、人のつながりの大切さを感じました。複雑化困難化する現代社会において、教育界では、子どもたちの多様化やいじめ、不登校等の問題、教員不足等、教育課題も山積している状況です。私は、このようなときにこそ、人のつながり、絆の大切さが、たくましく生きる力を育む大きな力の源になると思っています。

さて、総会時にも話題となりましたが、夕陽会における財政状況はとても厳しい状況になってきています。これは、会員減少による収入減とアフターコロナによる事業再開による支出増のためと考えられます。事業再開については、とても喜ばしいことであるため、ぜひ実施していただきたいと思いますが、今年度の予算配分を鑑みると、本部として更なる工夫をしていかなければならないと考えます。そのためにも財政部としては、多くの諸先輩方や会員の皆様からのお知恵をいただくとともに、皆様と協力しながら行う持続可能な事業展開への支出をしていかなければなりません。時流を見ながらできることにについて支援し、会の発展に寄与できるような職務にあたらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

私は、平成三年に母校を卒業し、日高管内新冠町立節婦小学校を振り出しに、北斗市、函館市の小学校で勤務をしました。さらに管理職として室蘭市で勤務をしたのち、函館市内で勤務をしております。どの地においても夕陽会の諸先輩方からの温かいご指導やご支援を賜り心より感謝しております。特に管理職としてはじめて単身で赴任した室蘭では、夕陽の諸先輩の皆様にかけていただいた温かいお言葉には、同窓のつながりと深さとありがたさを実感させていただきました。情宣部では、年二回の会報の発行やホームページを通して、各種事業の推進状況や母校学生や会員の活躍の様子などを発信しています。

この度の就任を機に、夕陽会の発展と情報の提供に寄与できよう会務に当たらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

私は、平成四年に母校を卒業し、根室管内の別海町立別海中央小学校に着任し、その後、松前町、函館市、福島町で勤務してまいりました。どの地においても、夕陽会の諸先輩方からの温かいご指導やご支援を賜り、同窓の素晴らしさを実感することができました。現在、学生支援部では、母校学生に対して、研究・スポーツ・文化活動等への応援金の支給、学生応援プロジェクトとしてクオカード等の支給などを行っております。今後も、限りある財源の中で、未来ある学生のためにどのような支援に取り組めばよいかを吟味し、皆様のご協力を賜りながら、推進していきたいと考えております。これまでご指導いただいた諸先輩方、お世話になった皆様への恩返しのためにも、この度の就任を機に、微力ながら夕陽会の発展に寄与できるように職務にあたらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

会務報告



幹事長
澤田 仁志
(平成9年卒)

6/28 全国支部長会議・本部総会・大懇親会(函館国際ホテル)

7/12 空知支部教育講演会に会長と黒田副幹事長が講師として出席する

7/18 (岩見沢ホテルサンプラザ)夕陽フォーラムへ宮下副幹事長・黒田副幹事長・澤田幹事長が講師として出席する (母校)

7/26 明日の教師養成塾へ附属学校職員が面接指導講師として出席する (附属中)

8/07 帯広十勝支部巴湾会OB・OG会七夕の集いが開催される

8/21 教育実習生対象に支援として

会員・出版の紹介



「北の学徒出陣」が出版されました。著者は昭和四十八年卒・島津 彰で、各書店で発売中。

てQUOカードを配付する
(各実習校)
8/22 石狩支部第2回定例学習会に講師として木古内町立木古内中学校校長深見亘氏に参加していただく

(さっぽろテレビ塔)
9/13 北海道教育大学同窓会会長・理事長(専務理事・幹事長)会議に風間会長と澤田幹事長が出席する

(旭川トーヨーホテル)
9/27 指導主事等会学習会へ風間会長と黒田副幹事長が出席する (札幌コンファレンスホール)

9/30 第1回本部役員会 (附属特別支援学校)
10/4 岩手支部久慈集会へ風間会長が出席 (久慈グランドホテル)

10/24 会報239号発行

◎内容…戦後八十年を振り返る意図で、I部は道内の八つの大学の昭和十八年の学徒出陣者(特攻隊員など)の遺書や同期の想い出等を記述。夕陽会員では八名について記述。II部は、他期の卒業生を取り上げ、夕陽会員ではシベリア抑留中に戦没された一名について記述。

III部は、道内の戦争秘史二十八話(函館ドック・マニラ工場、函館捕虜収容所の聖夜、トラピスト修道院と戦争など)を記述。

*記念講演

十一月十五日(土) 十三時より
函館鳶屋書店・二階ステージ

受賞(章)おめでとうございます

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(4. 1)

阿部 成孝氏 昭和33年2類卒業 函館市西旭岡町1-23-2

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(4. 1)

小鹿 隆次氏 昭和35年2類卒業 函館市桔梗町3-15-6

※春の叙勲瑞宝小綬賞(4. 29)

大村 義美氏 昭和44年卒業 函館市富岡町3-22-3

※春の叙勲瑞宝小綬賞(4. 29)

笠井 秀敏氏 昭和44年卒業 伊達市舟岡町96-77

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(7. 1)

中村 昶氏 昭和35年1類卒業 七飯町緑町3-4-26

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(7. 1)

古野柳太郎氏 昭和36年1類卒業 函館市柏木町15-32

※函館市市民貢献賞(保健福祉功労)(8. 1)

山田 富雄氏 昭和28年2類卒業 函館市大川町4-43-713

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(9. 1)

林原 幸雄氏 昭和33年2類卒業 函館市日吉町3-34-10

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(9. 1)

小川 功二氏 昭和34年2類卒業 七飯町本町2-3-6

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(10. 1)

西山 達也氏 昭和34年2類卒業 函館市美原4-22-3

※高年齢者叙勲瑞宝双光章(10. 1)

小熊 庸介氏 昭和35年1類卒業 函館市富岡2-52-20



高等学校支部だより

高等学校支部長 花 松 均
(平成30年卒 北海道函館西高等学校長)

全道各地を異動し、残り少ない教員生活を生まれ育った道南で、少しでも恩返しができるかと思いつきながら教育活動を進めています。

道南においても、急速な少子化や高齢化とそれに伴う生産年齢人口の減少を始めとする様々な課題を抱えています。公立高校では、高校の統廃合や学級減がますます進むことが推測されます。令和八年度に函館水産高校が一学級減、令和九年度から南茅部高校が募集停止、令和十年度には函館西高校が一学級減になることが既に決まっています。また、私立高校においても、今後の中卒者数の減少により、募集定員を縮小せざるを得ない状況になっていきます。地域における学校規模の縮小だけではなく、教員のなり手不足が大きな課題にもなっています。小中学校を始め高校においても、四月当初から欠員が生じている現状にあります。母校函館館校に教員養成課程がなくなってしまうことによる影響は計り知れないと感じています。道南の教育力を維持するためにも、地元生徒が教員養成に進み、教員として道南に帰ってこれる環境を確保する必要がありますと考えています。道教委では、高校生を対象に、教員の仕事や魅力を紹介するほか、現職教員との懇談



特別支援学校支部だより

特別支援学校支部長 吉 野 隆 宏
(平成20年卒 北海道伊達高等養護学校長)

会や教員体験等のセミナーを開催したり、札幌北陵高校と道教大札幌校、旭川北高校が旭川校、釧路江南高校と釧路校が連携し、「みらいの教員育成プログラム」が行われ、小中学校での実習や学校設定科目「教員基礎」「教員基礎探求」を設定して、高校段階からの教職への理解を深め、教職志望意欲の向上を図った取組が行われています。残念ながら、このプログラムと連携した道南の高校は、現在のところない状況にあります。このような現状を踏まえ、今後の道南での教員不足はますます深刻なものになると思われまます。函館校はもとより、道南の大学と連携を図るとともに、夕陽会を始め、それぞれの立場で知恵を出し合いながら、道南の教職志望者の育成を図っていくことが急務と考えています。

さて、教員のなり手不足は、高等学校支部においても新規の会員が見込めないなど、支部としての運営が難しい状況となっています。高等学校支部につきましては業務を簡素化し、「同窓生の母校への思いを伝える組織」として、運営が可能な時期まで、既存の高等学校支部会員の思いに添えて活動していくこととしておりますので、今後とも相変わらぬご指導とご支援をお願い致します。

特別支援学校支部は、昭和五十六年に養護学校が義務化された二年後に結成された「札幌地区特殊教育諸学校夕陽会連絡会」が起源で四十四年を経過しました、昭和六十一年に「北海道特殊教育夕陽会」、平成七年に「夕陽会特別支援諸学校部会」、平成八年に「夕陽会特殊教育専門部会」、平成十二年六月の本部総会で「夕陽会特殊教育諸学校支部」として承認されました。平成二十年に「特別支援学校支部」と名称を変更し、現在支部としては二十五年になります。

母校の障害児教育研究室が昭和四十七年に札幌分校と同時に開設され、昭和五十一年に附属養護学校が開校し、一学年二十名の養護学校教員養成課程と副免の教育実習が、毎年九月に実施されてきました。平成十一年に養護学校教員養成課程が廃止になるまでの間、五百名を超える卒業生と副免履修の免許保有者を多数輩出し、道内の特別支援学校を中心に活躍しています。現在、母校では、地域教育専攻の学生(一学年四十五名)のうち十数名は特別支援教育を専攻しています。その学生の皆さんは、卒業後、特別支援教育の道を希望し各地の特別支援学校で勤務し、活躍しています。

一、支部総会、研修会

特別支援学校は、全道全国に所在し、在職中の教職員と退職して地域に貢献されている多くの先輩が含まれます。特別支援学校支部の会員は、附属特別支援学校の教職員を中心に四十名程度の登録数ですが、毎年一月、学校が冬季休業中に札幌で支部総会、研修会を実施しています。現職会員と退職会員に加え、本部役員をお迎えして、近年は、札幌と各地をオンラインでつなぎ、ハイブリット形式で支部総会、研修会を実施し、会員の拡大に取り組んでいます。

二、特別支援学校支部だより

年二回、支部だよりを発行し、支部総会の案内や研修会の報告などをメールにて配信しています。

新型コロナウイルス感染症が拡大する以前は、支部総会終了後に懇親会を実施していましたが、ここ数年は行うことができていません。ぜひ各支部の懇親会に特別支援学校の教職員や高等学校支部、民間の同窓生もお誘いいただき、各地で交流し、支部の枠を超えた新たな同窓の絆を築いていただけるとありがたいです。

支部だより

数学科同窓会

「懇親会」について

数学科同窓会では、数年ぶりに懇親会の開催を計画しております。来年度(令和8年度)の開催を目指し、現在準備を進めております。同窓のみならず、集まり、大学時代の思い出話や算数・数学の話を交えながら、懇親を深める場になりたいと思っております。何分にも数年来隔てての開催であり、参加者数の予想も立ちません。また、本会は数学科卒業生と入会を希望してくださった方々による組織であり、お金も持たない会ですので、ご案内の仕方や開催準備にも工夫が必要です。

そこで、懇親会への「参加を希望の方」や「そのような会があったら参加を検討したい」という方を事前に確認し、日時や会場が決まりましたら、ご連絡をいただいた方を対象にあらかじめご案内をさせていただきますと考えております。

懇親会があったら「参加したい」「参加を検討したい」方は、左記のメールアドレス・電話番号・QRコードのいずれかからご連絡をお願いいたします。ご連絡いただいた方の「お名前」「住所」「電話番号」「メールアドレス」などをお聞かせ願うこととなります。そして、懇親会の詳細が決まり次第、ご連絡いただいた皆さまに改めてご案内を差し上げます。

会員の皆様からのご連絡状況を見て、懇親会の開催可否から再度検討したいと思っております。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

数学科同窓会にご入会の方はもちろん、入会をご検討中の方も、ぜひご参加ください。多くの皆さまからのご連絡を心よりお待ちしております。

数学科同窓会 会長 五十嵐 義幸

(七飯町立七重小学校 校長)

【連絡先】数学科同窓会 幹事長 鈴木 悠太

(北海道教育大学附属函館小学校 教諭)

電話：0138-4612235

メール

suzuki.yuta@hokkyodai.ac.jp



夕陽会員 訃報

田口 丞二氏 昭32Ⅰ 4・3・11逝去 札幌市白石区本郷通六の北4の1の106子 圭二氏	高土井一義氏 昭27Ⅱ 7・4・14逝去 函館市桔梗町435の40 長女 安里 栄子氏
天野 哲征氏 昭41Ⅰ 5・7・逝去 函館市川原町18の10の503 妻 信子氏	神野藤重瑞氏 昭19 7・4・24逝去 函館市鍛冶2の17の8 長女 美津子氏
高木 和夫氏 昭27Ⅱ 6・1・逝去 七飯町大川4の34の4	野沢 義郎氏 昭34Ⅱ 逝去 札幌市手稲区前田1条10の2の13
米谷 隆氏 昭36Ⅰ 6・6・8逝去 函館市中道2の26の10 子 伸夫氏	小野瀬英勝氏 昭42 7・5・10逝去 北斗市本町5の25の22 妻 規子氏
水上 順子氏 昭24小学校教員養成所 川村 亮治氏 昭28Ⅰ 6・7・22逝去 函館市大森町30の10の701 子 慎氏	浜井 広光氏 昭35Ⅰ 7・5・17逝去 函館市美原5の24の2 長男 隆之氏
山田 肇氏 昭38Ⅰ 6・11・21逝去 函館市上野町16の7	小橋美枝子氏 昭37Ⅰ 7・5・21逝去 函館市中道1の8の9 弟 誠太郎氏
石塚 琢美氏 昭38Ⅰ 6・12・22逝去 函館市山の手3の62の10	葛西 幸一氏 昭32Ⅰ 7・5・24逝去 函館市川原町12の6 妻 睦子氏
梶谷 克己氏 昭34Ⅱ 6・12・27逝去 函館市山の手3の62の10	石津 兼一氏 昭37Ⅰ 7・6・2逝去 函館市大川町13の9 妻 幸子氏
植村 茂樹氏 昭36Ⅰ 6・12・28逝去 函館市田家町18の29	藤井 良江氏 昭51 7・6・19逝去 函館市中道1の16の13 夫 壽夫氏
山内 幹雄氏 昭49 7・1・6逝去 函館市山の手1の26の18	佐藤 榮春氏 昭24 7・6・24逝去 東京都西東京市富士町1の9の16
金田 豊秀氏 昭30Ⅰ 7・1・逝去 函館市美原3の46の14	旦尾 宏氏 昭35Ⅰ 7・7・10逝去 函館市美原5の22の12 長男 雅樹氏
四宮 真司氏 昭61 7・1・逝去 釧路市春採7の7の9	下條 啓吉氏 昭39 7・7・17逝去 函館市田家町10の11の801
鈴木 匡氏 昭33Ⅰ 7・2・10逝去 函館市東山2の65の11	柳田 幸男氏 昭30Ⅰ 7・7・22逝去 函館市柏木町35の6 妻 テル氏
小野寺 勇氏 昭30Ⅰ 7・2・15逝去 函館市東山3の4の1 妻 節子氏	杉村 光男氏 昭35Ⅱ 7・7・23逝去 函館市大手町19の16 長男 行助氏
赤石 勲氏 昭50 7・2・25逝去 函館市桔梗4の24の7	片桐 昭氏 昭31Ⅰ 7・7・26逝去 東京都渋谷区恵比寿西2の6の14の703
岸浪 忠義氏 昭42 7・2・26逝去 札幌市東区北十条東6の1の16の100	乳井 イオ氏 昭26小学校教員養成所 函館市八幡町22の3 長男 克衛氏
堀 巴津雄氏 昭29Ⅱ 7・2・28逝去 札幌市東区北39の東6の2の26	小山 直子氏 昭54 7・8・4逝去 函館市榎本町2の19 妹 三上 美津子氏
村上 彰氏 昭34Ⅱ 7・3・28逝去 函館市銭亀町25の41	岩佐 正治氏 昭33Ⅰ 逝去 東京都八王子市市井里町21の1の201 子 真二氏
花田 和雄氏 昭32Ⅱ 7・4・3逝去 伊達市網代町39の49	吉野 利貞氏 昭44 7・9・24逝去 伊達市竹原町77の46 妻 悦子氏
	菅原 圭一氏 平10 7・9・29逝去 北斗市追分2の63の21 妻 志織氏

令和7年度発行会員名簿について

発行に向けて、皆様のご支援・ご協力大変ありがとうございました。十二月には完成予定です。令和七年度版の名簿の取り扱いの詳細につきましては、次号の会報にてご連絡差し上げます。本部としては、今後の名簿の発行、取り扱いについて、個人情報保護の観点からも、冊子版からデジタル版への移行も含めて現在検討中です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

◆本号から担当となり、澤田幹事長の応援のもと、会報発行に向けて準備を進めてまいりました。また、ご多用の中、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

◆函館市は、今年度も昨年に引き続き、市町村の魅力度ランキング(地域ブランド調査2025)で、一位となりました。魅力ある函館の良さを未来を担う子供たちにも感じてもらう教育の充実が必要と感じております。

◆これからも母校の発展と学生や同窓の皆様のご活躍・ご多幸を祈念しながら、夕陽会報第二三九号をお届けいたします。

(情宣部長 宮森 仁之 記 平3卒)

へお願いいたします。
本部事務局へのご連絡などは、次の所

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138)4612235

夕陽会専用070-852119110

FAX番号(0138)4717376

e-mail: sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)